

◆海外まき網漁船・新造船「第八十一源福丸」竣工 — 兼井物産株式会社 —

〈中西部太平洋漁場に向けて出航〉

冬の穏やかな風のもと、兼井物産株式会社所属の新造海外まき網漁船「第八十一源福丸」が駿河湾周辺での試験操業を滞りなく行い、焼津漁港に着岸した。

「第八十一源福丸」は、国の漁業構造改革総合対策事業「もうかる漁業」の支援を受け、静岡市の三保造船所で建造された最新鋭の海外まき網漁船。1 月 13 日に焼津港から長崎に向けて回航し、1 月 18 日に中西部太平洋漁場を目指し長崎港を出港。出港当日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため出港式は開かず、神事により航海安全と大漁を祈願し出漁した。

大型化し漁場探索用ヘリコプターが搭載可能

従来の海外まき網漁船は、本船（349 トン）に搭載された搭載艇と約 2000 m の網を駆使してカツオやマグロを漁獲するが、「第八十一源福丸」は総トン数を 760 トンまで大型化するとともに、船橋上部にヘリポートを備え、漁場探索用のヘリコプターが搭載できるようになっている。

〈インマルサット F X (フリートエクスプレス) を搭載

はるか洋上でも乗組員がスマートフォンで家族や友人と通信〉

画期的な本船の特徴

試験操業を終えた高橋哲典漁労長は「本船は 760 トン型海外まき網漁船のコンセプトは継承しつつ、乗組員からのアイデアも多く取り入れ、随所に創意工夫を凝らしたスタイリッシュな漁船となった。冷凍能力は従来比で約 20 % 向上し、より付加価値の高いカツオやマグロを水揚げすることができる。また、船員の居住区や食堂も拡充され、衛星通信はインマルサット F X（フリートエクスプレス）を搭載し、船内に W i - F i アksesポイントを 6 カ所設置することで、乗組員は遥か洋上でも、居室などで各自のスマートフォンを使い家族や友人と無料で通信ができることとなった」と、画期的な本船の特徴を語ってくれた。

また、高橋漁労長は「これから最新鋭の機器を駆使し、そして何よりも本船乗組員全員のチームワークを大事にして、新たな船出を果たしたい」と漁業にける熱意と抱負を語った。

「第八十一源福丸」の今後の活躍が期待される。

「海員だより」